

人材育成

技術開発

商品開発

市場・販路開拓

観光開発

スポーツ・文化交流

その他

十和田市

十和田湖マラソン大会

◎事業名



〈事業主体名〉
十和田湖マラソン大会実行委員会
 〈事業年度〉
平成30～令和元年度
 〈助成金使用項目〉
 ○表彰用品
 ○大会運営費
 ○参加者募集・告知費 他
 〈連絡先〉
 十和田商工会議所
 川村 光
 〒034-8591 十和田市西二番町4-11
 TEL.0176-24-1111

プロジェクトの経緯

平成30年度～平成26年度、マラソン大会開催可能性調査を開始。平成27年度、十和田湖マラソン大会実行委員会設立。平成28年度に第1回大会開催。以降、毎年開催

十和田湖地域の再生に向けた方策としてのマラソン大会

「もともとは、観光客が激減し、地域経済の疲弊や景観の悪化が続く十和田湖地域を活性化するために何かしたいと考えたのが始まりでした」と、当時、十和田商工会議所青年部会長、後に、十和田湖マラソン大会実行委員会の委員長を務めることになる佐藤さん。ともに開催まで尽力した青年部のメンバー小川さんも、マラソン大会の立ち上げ時をこう振り返ります。「あくまでも基本は観光振興です。風景や物産など十和田湖の魅力を広く知ってもらうことが目的。そのためには、地元産品を使い、地元の人に関わるのが重要だと。それを全部繋げていくと、マラソン大会が通しているということになりました」。取り組み2年目の平成27年度、十和田湖マラソン大会実行委員会が設立されます。商工会議所青年部の事業としてやるよりも、当初の思の通り、もっと地域の人を巻き込もうと実行委員会方式をとることになりました。

地元の子供たちの声援がランナーに好評

準備を始めて3年目、早くも第1回大会の開催に近づけます。参加ランナーのエントリー数は48名とは目標を達成。翌年の2回目は、前年の参加者の意見を参考に、着替えの場所、荷物の預かりの方法など改善でき



十和田湖マラソン大会実行委員会
 実行委員長 佐藤百年さん(右)、副実行委員長 小川秀樹さん(左)

十和田湖の 風景、物産、人の魅力を伝える マラソン大会に

十和田の人にとっての「自分たちの大会」に育てたい

令和元年度の第4回大会を終え、今お二人は、交通規制や地元への協力という面でも理解が進んでいると感じています。「十和田の人には、B1グランプリの全国大会でボランティアの経験があるので、一般の人もボランティアでの参加に慣れているという面もあると思います。ゴール後に閉会式会場などで十和田湖ひめます汁や十和田バラ焼きなど地元の味をふるまうのですが、十和田バラ焼きセミナーの人たちを始め、地元の方が協力してくれています。また、このレースは、閉会式の会場とスタート・ゴール地点が離れているので、その間に十和田湖の景色を楽しんでもらうために遊覧船が運ぶのが特徴です。ここでは、遊覧船を運航する十和田観光電鉄さんにも協力いただいています」「佐藤

さん。「遊覧船の見送り、迎えにも子供たちが自主的に参加してくれて、ハイタッチの思い出がたいへん好評です」「小川さん。今後について、「第1回の開催あいさつで、「ポルマルマラソンぐらいをめざす」と書きました。国内だけでなく、外国の方にも参加してもらえようような大会に育てたい」と佐藤さん。小川さんは「地元の人たちが自分たちの大会という意識をもっと持つてもらえれば、やらされているのではなく、「こうしたいほうがいいのでは」とか「こういうこともできるのではないかと」、いろいろ意見を出してほしいですね」。

大会も4回を数え、ただ来て走って帰るとい

(左上) セレモニー会場からスタート・ゴール地点までは、遊覧船がランナーたちを運ぶ
 (左下) 声援に応えるランナー
 (右下) 令和元年「第4回十和田湖マラソン大会」スタートの様子



06

(十和田市) 十和田湖マラソン大会

きるころを改善。また、ハーフでも結構きつという声があったことから、3回目の平成30年度大会から距離を短縮したフオーターコースも設けました。

「ランナーからは、木陰を走る区間が多く、暑さはそれほどでもない、起伏もあり風景もよくクロスカントリーに近いコースという感想をいただきました。諏湖台はきついです。が、十和田湖を走ってもらうからにはここは外せないですから」と小川さん。佐藤さんも「山の中を走りますから、給水所などポイント、ポイントにいる地元の子供たちの声援が「うれしい、心強い」という声も多いです。ネットの書き込みを見ても、「地元の人たちの応援がとっても気持ちいい大会だ」という評判が多く、そうした大会として定着してきているようです」と、参加ランナーたちの声に励まされていると言います。

